

東海鉄道OB会報

創刊号

平成17年4月



目次

「東海鉄道OB会の発足にあたって」 東海鉄道OB会会長 堀内章……………	2
「東海鉄道OB会の発足に寄せて」 東海旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 松本正之……………	3
各地区OB会本部長挨拶 東海東京地方本部長 川崎孝夫……………	4
静岡地方本部長 小尾嘉俊……………	4
名古屋地方本部長 平井義朗……………	5
東海大阪地方本部長 片山好郎……………	5
東海鉄道OB会会則……………	6
東海鉄道OB会組織概要……………	8
祝 東海鉄道OB会発足 おめでとうございます……………	9
JR東海トピックス……………	11
グループインフォメーション……………	15
JR東海超電導リニア館……………	16
「叙勲」について……………	19
駅探訪／会報への寄稿、 文芸欄への投稿「要領／編集後記」……………	20

東海鉄道OB会の発足にあたって



東海鉄道OB会会長
堀内 章

平成十七年四月一日、「東海鉄道OB会」がスタート致しました。

昭和二十八年に「国鉄OB会」として発足してから五十余年、その間JR誕生を機に「日本鉄道OB会」と名称だけは変えましたが、実態は何も変わらないまま今日まで参りました。

JRが発足してから丸々十八年、やっと新体制に即したOB

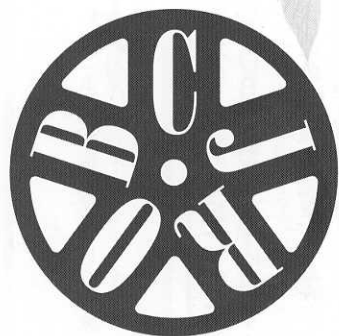
会に衣替え出来たことを、心から喜ばずには居れません。

新しいOB会は、東海旅客鉄道株式会社エリアに居住する鉄道OBによって構成されますが、今後はJR東海との結びつきを益々強くし、JR卒業生にもどしどし入会してもらって、活気のあるエネルギーに満ちたOB会として、末永く発展して行くための基本路線が確立されたと言えましょう。

会員相互の親睦を深め、喜びを共にし、苦しみを助け合って、充実した日々を目指すことは勿論ですが、東海旅客鉄道株式会社と関連グループ企業等に対する様々な協力活動をより強化し盛り立てて行くことも我々の責務であります。

これからは、我々は「東海鉄道OB会」と言う、自主独立した組織体として行動し発展して行かなければなりません。

会員皆様のご支援を頂戴しながら精一杯努める覚悟でありますので、宜しくお願いしてご挨拶と致します。



東海鉄道OB会
シンボルマーク

「東海鉄道OB会」の 発足に寄せて



東海旅客鉄道株式会社
代表取締役社長
松本 正之

「東海鉄道OB会」が発足されますことを心よりお祝い申し上げます。

また、ここに至るまでの関係各位のご尽力に深い敬意を表します。

昭和二十八年の発足以来五十年余の歴史を重ねた「日本鉄道OB会」が、全国組織から旅客鉄道会社単位へとその組織を替えることは、旧国鉄の分割民営化から十八年の歳月を経た時代の趨勢でありまして、真に時宜

を得たところであるといえます。

この間、当社並びにグループ会社各社におきましては、順調な発展を遂げてまいりましたし、株式の上場や完全民営化を成し遂げてまいりましたが、これも、OB会皆々様の増収へのご協力や各種ご支援などのお陰と心より感謝申し上げます次第です。

昨年十月には、わが国の社会・経済の発展とともに成長を続けてきました東海道新幹線が開業四十周年を迎えましたが、鉄道事故による死傷者ゼロを継続するなど、世界に冠たる安全性と、比類なき正確性を実現してまいりました。これからも、現在開発中の次世代車両の投入や、新たな自動列車制御装置の導入工事を推進して、より利便性を高めてまいりますし、在来線におきましても、新幹線との連携を高めるとともに地域の足としての安全・安定輸送を続け

てまいります。営業面におきましても、五十歳以上の方の旅クラブ「JR東海50」等により、新たな需要の喚起に取り組んでいくところであります。

一方、関連事業に關しまして、鉄道輸送関連事業はもとより、JRセントラルタワーズ事業や不動産事業まで幅広く積極的に展開いたしておりますので、今後とも、「東海鉄道OB会」の皆様には倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

日本人の平均寿命は「男性七十八・四歳・女性八十五・三歳」と世界一の長寿国でありまして、高齢化社会の到来と団塊世代社員の退職を背景に、「東海鉄道OB会」におかれましては、会員諸氏間の交流を深められますとともに、益々活動を活発に展開され、当社並びにグループ会社の発展と歩調を一つにしながら発展されますことを心より祈念いたしましてお祝いのご挨拶とさせていただきます。

各地区OB会本部長挨拶

東海鉄道OB会の設立にあたって

東海鉄道OB会東海東京地方本部長 川崎 孝夫

東海旅客鉄道株式会社東京地区に東海東京地方本部を設立したのは平成十三年九月でございます。設立当初は百四十六名という組織のスタートでありましたが、その後会員が徐々に拡大し、現在では二百二十名を越え、今後も増加の傾向をたどるうとしております。

また、会報もすでに九回発行し会員相互の「きずな」作り工夫を凝らし、レクや奉仕活動といった支部活動もはじめました。すでに立派な活動を行っておられます名古屋や静岡のみならず、今後ますます協力をお願いしながら、今後ますますいい組織作りに邁進してまいりたいと思っております。



私自身常日頃からOB会という組織に無限の意義を見出し

ております。そこにはお互いが同じ組織で働いていたという心からの親しみ、懐かしさというところが純粋な動機となり、なんらの利害関係が念頭にないからであります。昔読んだ王陽明の朋党論には、「およそ君子と君子とは道を同じゅうするをもつて朋となり、小人と小人とは利を同じゅうするをもつて朋となる。小人には朋なく、ただ君子のみにすなわちこれあり」という一節がありました。この意味において、何らの利害関係によらず、ただ美しき組織愛によつてのみ成り立つOB会こそ、まさに君子の交わりであり、お互いが誠の「朋」を得たものであると言えるであります。ここに、東海鉄道OB会の設立を心からお祝い申し上げます。

東海鉄道OB会発足にあたって

東海鉄道OB会静岡地方本部長 小尾 嘉俊

東海鉄道OB会発足おめでとございます。顧みますと国鉄末期の惨状から脱皮するには分割民営しか無いとし、昭和六十二年四月に実施した国鉄改革から早や二十年の歳月が経ちます。この間JR東海では東京サブターミナル品川駅も完成し全ての列車が最高時速二七〇キロを樹立、更新中で世界に誇る鉄道を確立しています。

一方、OB会組織は名称を国鉄OB会から日本鉄道OB会へと改称し旧来型の活動を続けて来ましたが、会員の約八〇%が国鉄時代の退職者で高齢化により組織の維持すら危ぶまれ、会社とOB会の連携を密にしなければ



ばとの声に四月から実施することになりました。

OB会の主な任務であった年金問題も資金面での危機を会社の協力と関係各位の理解により平成九年四月厚生年金と統合できました。しかし国鉄時代の退職者に比べJR退職者の年金は格段に低くこの問題の関心は薄かったことも事実であり、新入会員の加入に支障をきたして来ましたが、今後も補助金の問題は残りますが日本鉄道OB会連合会と共に関係各位に働きかけることにしています。

またOB会への加入者は各支部により温度差はあるものの資格者の三〇%台にとどまっています。これからはJR東海との連携を更に強化し情報・施策等を会報に掲載するなどJR東海ともども東海鉄道OB会を伸ばすよう会員一人ひとりが心掛けることが大切であり、これが組織の発展につながるものと確信しております。

各地区OB会本部長挨拶

東海鉄道OB会の発足を祝して

東海鉄道OB会名古屋地方本部長 平井 義朗

まずは、東海鉄道OB会の発足を心からおよろこび申し上げます。

本日、新しく地域に密着した鉄道OB会組織がスタートいたしました。ここに至るまでには東海旅客鉄道株式会社様をはじめ、関係各位及び会員各位のご理解とご協力をいただきながら組織改編の準備が進められ、今日を迎えることができました。

この間のお骨折りに厚く御礼申し上げます。

新しいOB会は、これまで以上に東海旅客鉄道株式会社をはじめとして関連企業各位との結びつきをより一層強くし、より強固な組織にしてい



くことが必要であります。

そのためには、JR退職者が気持ちよく入会していただけるような組織にしていかなければなりませんので、これから皆さん方とともに、自主独立した組織の確立を目指して頑張つて参る所存でありますから、ご協力いただけるようよろしくお願いいたします。

なお、今回の組織改編に伴う異動で堀内地方本部長が、東海鉄道OB会会長職に就かれたことによりまして、その後任として名古屋地方本部長の重責を担うことになりました。微力ではありますが、名古屋地方本部はいうに及ばず東海鉄道OB会の発展に尽くして参りますので関係各位のご指導とご支援をいただきながら努力いたします。貴重な誌面を拝借して就任の挨拶とさせていただきます。

東海鉄道OB会発足を記念して

東海鉄道OB会東海大阪地方本部長 片山 好郎

「東海鉄道OB会」の発足おめでとうございます。

平成十七年四月一日から各旅客鉄道会社毎のOB会が動き出しましたが、関西地区の特情として、殆どの会員の居住地がJR西日本のエリア内にあり、地域での活動をするにはJR西日本の地域支部に所属するしかなく、少数の会員の方は双方に登録されておりました。また、JR東海出身のOBは少数でかつ多地域に分布しており独自の地域支部を立ち上げることは困難でした。したがって今日まで、職域支部のみの組織と活動しかできませんでした。

OB会の活動は、経験から



して多くの会員が集まりやすい地域での活動が一番望ましい活動形態ではないかと思えます。職域活動は現在年一回の同窓会的な総会を開催するのがやっとで、それ以上踏み込むのが非常に困難なのが実態でありました。

新しい組織では、JR東海出身者のみの組織となり、地域の活動を組織していくのに非常に良い条件が整うこととなります。

当面は、現組織の職域活動を中心に据えながら、大幅な会員増強を図り、一日でも早く地域支部の組織の立ち上げを行ない、関西地区におけるJR東海出身者の心より所となるような気軽に入会ができ、楽しい集団、参加しやすい活動のできるOB会組織を目指したいと思えます。

東海鉄道OB会則

平成17年4月1日制定(東海OB第1号)

第1章 総則

第1条 (名称) 会の名称は、東海鉄道OB会(以下「OB会」という。)

第2条 (組織) OB会は、会員をもって構成し、組織として本部、地方本部及び支部を置く。

第3条 (事務所) 2 支部には、必要により分会又は班を置くことができる。本部の事務所は、愛知県名古屋市中村区に置く。

第4条 (会則) OB会の運営上必要な基本事項を、この会則に定める。地方本部及び支部は、この会則に沿って運営上必要な会則又は規約を制定するものとする。

第5条 (目的) OB会の目的は、次のとおりとする。
(1) 会員相互の親睦、啓発及び福祉の増進を図ること。
(2) 東海旅客鉄道株式会社及び関連グループの事業の増進及び発展に寄与すること。
(3) 会員の処遇改善を図ること。
(4) 社会福祉の増進に寄与すること。

第6条 (事業) OB会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
(1) 会員相互の親睦を図るとともに、会員の生活向上及び援護活動を推進すること。
(2) 東海旅客鉄道株式会社及び関連グループの事業に協力すること。
(3) 会員の処遇改善を努めること。
(4) 機関誌を発行すること。

第7条 (会員の資格) OB会では、次の各号の1に該当する者で、OB会の趣旨に賛同し、その運営に協力する者をもって会員とする。
(1) 日本鉄道OB会東海東京、静岡、名古屋及び東海

第2章 会員・会費

2 前項各号の目的達成のため、各鉄道OB会と連携を密にすること。

第8条 (会員の区分)

OB会の会員の区分は、次のとおりとする。
(1) 普通会員 定められた会費を納入する者。
(2) 遺族会員 普通会員の遺族で、定められた会費を納入する者。
(3) 準会員 普通会員の配偶者(原則として会費は徴収しない)。
(4) 法人会員 企業又は団体等の法人で、1口10、000円以上の会費を毎年継続して納入する法人。
(5) 普通会員 普通会員の配偶者(原則として会費は徴収しない)。
(6) 法人会員 企業又は団体等の法人で、1口10、000円以上の会費を毎年継続して納入する法人。

第9条 (会費)

2 会員には、年4回発行する機関誌を配布する。但し、準会員は除く。
3 会員には、会員証を発行する。但し、法人会員は除く。
4 個人会員の会費は、年度会費(機関誌代を含む)とし、会員が所属する支部又は地方本部が定める。但し、本部に納入する基本会費として、次の各号の額を含むものとする。
(1) 普通会員・・・6000円
(2) 遺族会員・・・3000円
(注)長寿と認められている普通会員及び遺族会員は、基本会費を半額とする。
2 会費は、いずれも前納とし、年度初めに納入するものとする。

第10条 (入会会員名簿)

OB会に、個人会員として入会しようとする場合には、原則として所定の申込書に会費を添えて支部に申込みとする。但し、地方本部の直属を希望する場合は、地方本部へ申込みことができる。
2 OB会に、法人会員として入会しようとする場合には、原則として所定の申込書に会費を添えて本部又は

第11条 (退会)

OB会を退会しようとする場合には、理由を付した退会届を地方本部長又は支部長(以下「所属の長」という)に提出しなければならない。
2 会員は、次の各号の1に該当する事由が生じた場合には、所属の長は、これを除名することができる。
(1) OB会の名譽を著しく傷つけたとき
(2) 会員として不適当と認められる事由が生じたとき
3 会員が、催告したにもかかわらず引き続き2年を越えて会費を納入しない場合には、OB会を退会したものとする。

第12条 (除名)

OB会に、次の各号の1に該当する事由が生じた場合には、所属の長は、これを除名することができる。
(1) OB会の名譽を著しく傷つけたとき
(2) 会員として不適当と認められる事由が生じたとき
3 会員が、催告したにもかかわらず引き続き2年を越えて会費を納入しない場合には、OB会を退会したものとする。

第13条 (納入金の返還)

2 会員が、死亡、退会又は除名により資格を失ったときは、既に納入した会費その他の拠出金は、返還しない。但し、会員が死亡した場合で、届出によって遺族がその資格を継承することができる。

第14条 (表彰)

OB会は、別に定めるところにより、OB会の目的達成のため特に功績が顕著で、他の模範と認められた会員及び団体又は所属組織の役員として、永年その任務を遂行し、功績が顕著であると認められた会員に対し表彰を行う。

第15条 (慶弔見舞)

OB会は、次の各号について、別に定めるところにより、賀詞又は弔詞若しくは慶弔金又は見舞金を贈る。但し、準会員については、所属する組織の定めによる。
(1) 高齢に達した会員に対しての賀詞
(2) 死亡した会員に対しての弔意又は弔意金
(3) 病床中の会員に対しての病床見舞金
(4) 災害により死傷又は住居が被災した会員に対しての災害見舞金

第3章 役員その他

第16条 (役員) 本部に、次の役員を置く。

(役員選任)
第17条 2 (1) 役員若干名(会長1名、副会長若干名、専務理事1名)
(2) 会計監査員 2名以内
地方本部の代表者は、副会長とする。

(役員職務)
第18条 2 会長は、OB会を代表し、会務を総理する。
副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、これを代理する。
3 専務理事は、会長の指示を受けて会務を処理する。
4 会計監査員は、会計を監査し、総会にその結果を報告する。

(役員任期)
第19条 2 OB会の役員任期は、2年とする。但し、地方本部の代表者である副会長の任期は、代表者である期間内とする。
3 役員任期は、更新することができる。
4 役員は、任期が満了しても、後任者が就任するまでは、引き続き職務を行わなければならない。

(顧問)
第20条 2 OB会に、必要により顧問を置くことができる。
3 顧問は、会の運営に関して、意見を述べることとする。
4 顧問は、会長が委嘱する。委嘱期間は2年とし、更新することができる。

(事務局)
第21条 2 本部の事務を処理するため、事務局を置く。
3 事務局には、会長の指名した事務局長以下、必要な要員を配置する。
4 事務局に関する規定は、会長が別に定める。

第4章 本部会議

(会議の種類)
第22条 2 本部の会議は、役員会、総会及び事務局長会議とする。
3 役員会及び総会の議長は、会長が当たり、専務理事がこれを補佐する。

(役員会)
第23条 2 役員会は、重要な事業計画、予算、決算及び総会に提出する議案並びに会長が必要と認められた事項を審議する。
3 役員会は、前項の外、会の運営方針、事業の企画、組織間の連携、調整等重要事項についても審議する。
4 役員会には、会長が必要と認められた関係者を出席させることができる。
5 役員会は、年1回開催する。但し、会長が必要と認められたときには、臨時に開催することができる。
6 会計監査員は、必要により役員会に出席し、会計事務に関する意見を述べることとする。

(総会)
第24条 2 総会は、代議員をもって構成し、会則の改正、予算、決算及び重要な事業計画を審議決定する。
3 総会は、毎年1回開催する。但し、会長が必要と認められたときには、臨時に開催することができる。
4 代議員は、総会の都度、地方本部(本部を含む)毎に選出し、その定数は会員1,000名までに1名とする。
5 代議員の選出方法は、地方本部(本部を含む)が定める。

(議決)
第25条 2 役員会は、役員3分の2以上、総会は、代議員3分の2以上の出席がなければ開くことができない。
3 会議に出席できない役員又は代議員は、あらかじめ通知された事項については、他の役員又は代議員に、その権限を委任し、又は書面で議決に加わることができる。
4 会議の議決は、出席者の過半数で、これを決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。

(議事録)
第26条 2 各会議とも、議事録を事務局で作成し、保管する。
3 事務局長会議は、本部及び各地方本部の事務局長をもつて構成し、必要の都度開催する。

第5章 会計

(財源)
第28条 2 OB会は、会費、寄付金、助成金及びその他収入をもつて運営する。
3 OB会は、会計帳簿を備え、金銭物品の出納を明らかにし、会員から閲覧要求があつた場合には、これに応じられるようにしておくこととする。

(会計年度)
第30条 2 OB会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第6章 組織・活動

(本部の活動)
第31条 2 本部は、東海旅客鉄道株式会社管内地域に共通する問題について企画し、これを推進するとともに、地方本部の育成及び地方本部相互間の連絡、調整を図ることとする。
3 各鉄道OB会に共通する問題についても連携を密にし、連絡、調整を図っていくこととする。

(地方機関の設置)
第32条 2 地方本部は、次の基準により設置する。
(1) 地方本部は、原則として東海旅客鉄道株式会社の

本社、鉄道事業本部、支社等主要業務機関所在地に設けることとし、当面、東京、静岡、名古屋及び大阪に置く。
(2) 支部の設置は、次による。
ア 支部は、会員の居住地を単位として設置するが、事情により職種別又は職場別の支部を設置することができる。
イ 支部は、その所在地を所持区域とする地方本部に所属する。
ウ 支部に、分会及び班を置くことができる。

(地方組織の活動)
第33条 2 地方組織の活動は、次のとおりとする。
(1) 地方本部は、地域内における活動の中心組織として、事業の計画及び実施とともに、所属支部の育成と連絡、調整を図る。
(2) 支部は、地域活動の実行組織として、OB会の目的遂行のための活動を行う。
(3) 分会又は班は、支部の内部組織として、OB会の目的遂行のための活動を行う。
各組織は、常に会員の実態把握に努めることとする。

(代表者の指名)
第34条 2 地方本部の代表者は、申請により会長が指名する。
(設立の手続)
第35条 2 地方組織を設立しようとするときは、次による。
(1) 地方本部を設立しようとするときは、設立申請書1通を会長に提出し、承認を受けるものとする。
(2) 支部を設立しようとするときは、設立申請書2通を地方本部長に提出し、承認を受けるものとする。
(3) 地方本部長がこれを承認した場合は、設立申請書1通を添付して、会長に報告するものとする。

(組織の変更届)
第36条 2 地方本部又は支部が、合併、分割、所属変更又は名称変更等をするときは、あらかじめ地方本部は会長、支部は地方本部長の承認を受けるものとする。
3 地方本部長が承認したものは、会長へ報告するものとする。
4 設置の理由
ウ 事務所所在地又は連絡先
エ 主な役員の名氏及び略歴
オ 会員の見込数
カ 地方本部設立の場合は所属支部名
キ 支部設立の場合は所属分会、班名
ク 機関誌の配布方法
ケ 会費の納付予定額
コ 会則その他参考となる資料

付則 この会則は、平成17年4月1日から施行する。

◆東海鉄道OB会組織概要◆

平成17年4月1日現在

(会員数は平成16年9月30日現在)

本部
 会長 堀内 章
 専務理事 杉浦 定行
 事務局長 加藤寿美夫
 事務局次長 水谷 淳三
 (TEL 052-562-6080)

東海東京地方本部

本部長 川崎 孝夫
 事務局長 青柳 貞夫
 事務局 水越 春彦
 (TEL 03-3231-0251)

支部4、会員数224

- (支部)
- 運輸営業
- 車両
- 施設
- 電気

静岡地方本部

本部長 小尾 嘉俊
 事務局長 白井 康雄
 (TEL 054-282-3445)

支部27、会員数5,661

- (支部)
- 小山
- 御殿場
- 裾野
- 長泉
- 三島
- 沼津
- 原
- 富士
- 富士宮
- 身延
- 清水
- 静岡
- 焼津
- 藤枝
- 島田
- 金谷
- 菊川
- 掛川
- 袋井
- 磐田
- 浜松
- 浜松東
- 遠州北
- 湖西
- 豊橋
- 飯田
- 上伊那

名古屋地方本部

本部長 平井 義朗
 事務局長 加藤 寿美夫
 事務局次長 水谷 淳三
 事務局本部兼務
 (TEL 052-562-6080)

支部44、会員数7,672

- (支部)
- 三河
- 大府
- 半田
- 中村
- 千種名東
- 守山
- 鶴舞
- 笠寺
- 名古屋臨港
- 名城東北
- 名古屋機関区
- 名古屋工場
- 名古屋資材
- 稲沢
- 稲機
- 一宮
- 岐阜
- 西濃
- 垂井
- 関ヶ原
- 山東
- 滋賀県
- 岐阜工事局
- 尾北
- 美濃太田
- 高山
- 勝川
- 春日井
- 高藏寺
- 陶都
- 東濃
- 恵那
- 中津川
- 木曾
- 瀬戸旭
- 蟹江
- 津島
- 弥富
- 桑名
- 四日市
- 鈴鹿
- 津
- 松阪
- 伊勢

東海大阪地方本部

本部長 片山 好郎
 事務局長 吉村 潤治
 事務局 高森 仁司
 事務局 西井 康生
 (TEL 075-681-2541)

支部4、会員数117

- (支部)
- 運輸営業
- 車両
- 施設
- 電気

<p>祝 東海鉄道OB会発足 おめでとうございます (順不同)</p>		<p>東海キヨスク(株) 代表取締役社長 齋藤 蒨</p>		<p>名古屋ターミナルビル(株) 代表取締役社長 寺島 優</p>		<p>(株)ジェイオール東海ホテルズ 代表取締役社長 深山 靖</p>	
<p>ジェイオール東海バス(株) 代表取締役社長 佐野 守彦</p>		<p>ジェイオール東海フードサービス(株) 代表取締役社長 大西 貢</p>		<p>静岡ターミナル開発(株) 代表取締役社長 栗栖 哲義</p>		<p>静岡ターミナルホテル(株) 代表取締役社長 清水 暎一</p>	
<p>ファーストエアートランスポート(株) 代表取締役社長 竹下 正純</p>		<p>ジェイオール東海商事(株) 代表取締役社長 江藤 文人</p>		<p>浜松ターミナル開発(株) 代表取締役社長 磯崎 哲</p>		<p>名古屋ターミナルホテル(株) 代表取締役社長 深山 靖</p>	
<p>ジェイオール東海物流(株) 代表取締役社長 川栄 靖英</p>		<p>ジェイオールセントラルビル(株) 代表取締役社長 伊庭 昌広</p>		<p>名古屋ステーション開発(株) 代表取締役社長 渡部 一俊</p>		<p>(株)ジェイオール東海ツアーズ 代表取締役社長 所澤 熙夫</p>	
<p>(株)東海交通事業 代表取締役社長 粕渕 輝雄</p>		<p>ジェイオール東海不動産(株) 代表取締役社長 志田 威</p>		<p>ジェイオール東海静岡開発(株) 代表取締役社長 高橋 陵太郎</p>		<p>(株)ジェイオール東海エージェンシー 代表取締役社長 今村 元</p>	
<p>(株)ジェイオール東海高島屋 代表取締役社長 北野 稔</p>		<p>豊橋ステーションビル(株) 代表取締役社長 稲川 正幸</p>		<p>東京ステーション開発(株) 代表取締役社長 平澤 純一</p>		<p>(株)ウエッジ 代表取締役社長 松本 怜子</p>	
<p>(株)ジェイオール東海パッセンジャーズ 代表取締役社長 川崎 孝夫</p>		<p>新横浜ステーション開発(株) 代表取締役社長 菅生 邦孝</p>		<p>ジェイオール東海関西開発(株) 代表取締役社長 片山 好郎</p>		<p>新生テクノス(株) 代表取締役社長 下前 哲夫</p>	

<p>東海交通機械(株) 代表取締役社長 鈴木 正訓</p>	<p>日本機械保線(株) 代表取締役社長 並川 邦隆</p>	<p>ジェイアール東海情報システム(株) 代表取締役社長 安藤 昇</p>	<p>中央リネンサプライ(株) 代表取締役社長 今城 勝</p>	<p>ジェイアール東海総合ビルメンテナンス(株) 代表取締役社長 澁谷 高司</p>	<p>ジェイアール東海建設(株) 代表取締役社長 本多 啓</p>	<p>祝 東海鉄道OB会発足 おめでとうございます (順不同)</p>
<p>シーエヌ建設(株) 代表取締役社長 杉山 徳平</p>	<p>東海整備(株) 代表取締役社長 宮崎 禎雄</p>	<p>(株)関西新幹線サービス 代表取締役社長 藤田 邦隆</p>	<p>セントラルメンテナンス(株) 代表取締役社長 宮内 忠雄</p>	<p>新幹線メンテナンス東海(株) 代表取締役社長 渡邊 高峯</p>	<p>新幹線エンジニアリング(株) 代表取締役社長 高瀬 義道</p>	<p>ジェイアール東海コンサルタンツ(株) 代表取締役社長 梅木 健一</p>
<p>名工建設(株) 代表取締役社長 馬場 亮介</p>	<p>日本車輛製造(株) 代表取締役社長 松田 和久</p>	<p>(株)中部総合ビルサービス 代表取締役社長 鈴木 正訓</p>	<p>(株)名古屋鉄友社 代表取締役社長 小松 宣之</p>	<p>(株)鉄友社 代表取締役社長 池野 正治</p>	<p>(株)ジェイアール東海デリシャスフーズ 代表取締役社長 青柳 貞夫</p>	<p>双葉鉄道工業(株) 代表取締役社長 磯浦 克敏</p>
	<p>東邦電気工業(株) 代表取締役社長 千年 茂</p>	<p>アイワ電設開発(株) 代表取締役社長 山岡 泰利</p>	<p>名古屋通信工業(株) 代表取締役社長 清水 源治</p>	<p>(株)リックフーズ 代表取締役社長 齋藤 蒼</p>	<p>鉄建建設(株) 名古屋支店 執行役員支店長 村樫 源太郎</p>	<p>(株)全日警 代表取締役社長 片岡 直公</p>

JR東海ト

ピックス

安全対策部

社員一丸となった
取り組みで

年末年始安全・ 安定輸送を完遂

年末年始の安全・安定輸送を確保するため、12月10日から1月10日まで、「年末年始輸送安全総点検」を実施しました。

今年度は、大雨・台風などによる被害が相次ぎ、大幅にダイヤが乱れることもあったため、異常時における体制を再確認することなどを重点項目として、点検を実施しました。

総点検期間前半には、松本社長が名古屋駅を点検したのをはじめとして、各現業機関においても会社幹部等による年末年始輸送の取り組み状況の点検と社員の激励が行われました。

帰省などでお客さまのご利用が多くなる12月28日から1月5日の最繁忙期には、「年末年始安全輸送対策本部」を各鉄道事業本部等に設置し、取組体制の強化を図りました。期間中は、雪の影響により列車に遅れが発生した日もありましたが、無事に年末年始の安全・安定輸送を完遂することができました。

今後も社員一人ひとりの力を結集することにより安全・安定輸送に取り組んでいきたいと思います。

OBの皆様方からJR東海の現役社員の活躍ぶりについての情報を知りたいという声をたくさんいただきました。これに答えて本誌面ではJR東海及び関連会社の情報を「JR東海トピックス」として掲載してまいります。



▲松本社長（名古屋駅）



▲石塚副社長（東京第二運輸所）



▲原副社長（京都駅）

◆ JR東海トピックス ◆

東海鉄道事業本部
三重支店

安全・安定輸送の確保に貢献

台風21号・23号の災害対応に対し本部長表彰

昨年10月に三重・高山地区を中心に当社管内に大きな被害をもたらした台風21号・23号による災害への対応を評価し、本部長、主管部長による職場表彰を行いました。東海鉄道事業本部直轄管内では8職場が本部長表彰を、同じく8職場が主管部長表彰を受けました。また三重支店管内においても、2職場が支店長表彰を、6職場が主管課長表彰を受けました。その他、災害対応に尽力していただいた協力会社等にも感謝状が贈られました。

11月末から12月中旬に本部長や各部長が各職場を訪れ、箇所長や関係社員に表彰状と副賞金が授与されました。

阿久津東海鉄道事業本部長、佐竹三重支店長から祝辞をいただいた各箇所長からは、お礼の言葉と今後の決意が述べられ、また各職場の社員は受賞の喜びをかみしめるとともに、安全・安定輸送へのたゆまぬ努力を改めて決意しました。

表彰を受けた皆さん



▲大垣車両区



▲木曾福島工務区



▲神領車両区



▲高山駅・高山運輸区・高山工務区



▲伊那市駅



▲飯田工務区



▲紀伊長島工務区



▲紀伊長島駅

◆ JR東海トピックス ◆

新幹線鉄道事業本部

総勢178名が出席

平成16年度 第3回総合現場長会議

1月14日、原副社長、建守新幹線鉄道事業本部長、杉本関西支社長をはじめとする幹部出席のもと、関西支社を含む各職場から総勢178名が出席して「平成16年度第3回総合現場長会議」を開催しました。

最初に、和泉東京駅長と西脇米原電力所長が「現場長マネジメント発表」を行い、続いて本間浜松工場長と星屋三河安城保線所長が「防災防止に関する取組み発表（協力会社に対する指導）」を行いました。次に、原副社長から3月のダイヤ改正・愛知

万博等、今後の新幹線における諸課題に対する取組みの重要性等についての訓示がありました。

また、建守本部長から、好調だった年末年始輸送を無事完遂したことに對するねぎらいの言葉と、さらに新幹線の総合力を高めるため、目標をもつて常に前進を続けるようにとの訓示がありました。最後に巢山管理部長より、セキュリティの重要性等について説明があり、出席者全員が今後の各職場での取組みについて決意を新たにしました。



▲訓示する原副社長



▲訓示する建守本部長

総合企画本部

中央新幹線が果たす役割について議論

中央新幹線沿線学者会議 シンポジウム2004

12月21日、「中央新幹線沿線学者会議シンポジウム2004」が長野県飯田市のシルクプラザで開催されました。約320人の聴衆が参加する中、「新しい日本の社会を支えるリニア中央新幹線」をテーマに、信州大学名誉教授の平山祐次長崎県立大学学長がコーディネーターを務めて、パネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションは、セッションI「超電導リニア技術開発が我

が国に果たす役割」、セッションII「21世紀型社会資本整備の必要性」、セッションIII「生活の高付加価値化に向けて」の3つのセッションで行われ、社会・経済構造が大きく変革する21世紀の日本でのリニア中央新幹線が果たす役割について、各パネリストがそれぞれの専門の立場から発言し、活発な議論が交わされました。今回のシンポジウムは、今夏に愛知県で開催される予定です。



▲コーディネーターを務めた
平山祐次長崎県立大学学長



▲パネルディスカッションの様子

●今回のシンポジウムのメンバー（敬称略・五十音順）

コーディネーター

平山祐次（長崎県立大学学長）

パネリスト

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 伊藤達雄（名古屋産業大学学長） | 奥野信宏（中京大学大学院教授） |
| 今野修平（元大阪産業大学教授） | 斉藤峻彦（近畿大学経営学部教授） |
| 曾根 悟（工学院大学教授） | 竹内伝史（岐阜大学地域科学部教授） |
| 花岡利幸（山梨大学大学院教授） | 森地 茂（政策研究大学院大学教授） |

◆ JR東海トピックス ◆

事業推進本部

今秋の開業に向けて

「セントラルスクエア静岡」起工式

1月15日、静岡市の石田・南八幡住宅跡地において「セントラルスクエア静岡」の起工式を行いました。

「セントラルスクエア静岡」は当社グループが初めて手掛けるショッピングセンターです。当ショッピングセンターは、ショッピング館、グルメ館、スポーツ館の3つの建物で構成され、静岡市内で最大の店舗面積となります。

ショッピング館は、ユニー(株)による総合スーパーとし、これまでの水準を超えた最先端の「アピタ」となります。グルメ館は、様々な種類をそろえたレストラン街とし、「静岡初出店」



▲起工式の様子



▲「セントラルスクエア静岡」完成イメージ

等の話題性や知名度のある飲食店舗を導入します。スポーツ館は、(株)アルペンによる大型スポーツ専門店とし、静岡県初の新業態スポーツ専門店と東海地区最大級のゴルフ専門店を複合した「アルペン・ゴルフ5」となります。地域の方々に日常的にご利用いただける魅力あるショッピングセンターとするため、当社グループを挙げて取り組んでいきます。開業は平成17年秋を予定しています。

硬式野球クラブ事務局

今年もご声援をお願いいたします

硬式野球クラブ 平成17年試合日程

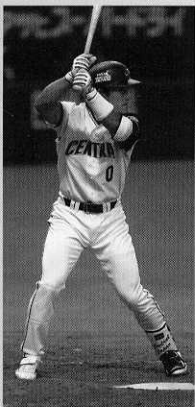
平成17年の硬式野球クラブの試合日程が決まりましたのでお知らせいたします。

昨年は多くの皆さまのご声援に支えられ、8年ぶりとなる東京ドームへの出場を果たすことができました。今年にはさらに新戦力を加え、家接監督を中心に全員野球で一丸となり戦ってまいります。社員・ご家族の皆さまには、ぜひとも各大会が開催される球場に足を運んでいただき、多くのご声援で選手をバックアップしていただきますようお願いいたします。

■平成17年参加大会予定表

大会名	期日(予定)	場所
静岡大会	4月 8日~12日	県営草薙球場他
長野大会	4月21日~24日	長野オリンピックスタジアム他
ペーパース杯大会	5月 1日~ 4日	岐阜長良川球場他
都市対抗野球大会 東海地区予選	予選リーグ戦 6月11日~19日	岡崎市民球場
	予選トーナメント戦 6月25日~7月6日	岡崎市民球場
JR大会	7月25日~26日	福岡ドーム
都市対抗野球大会	8月22日~9月1日	東京ドーム
日本選手権大会東海地区予選	9月23日~29日	岡崎市民球場
伊勢大会	10月13日~17日	伊勢倉田山球場
愛知県野球連盟会長杯大会	10月22日~25日	トヨタグラウンド他
日本選手権大会	11月21日~28日	大阪ドーム

*大会期日については、変更となる場合があります。



■家接監督のコメント

日頃より野球クラブに対し、温かいご支援、ご声援を賜りまして心より感謝申し上げます。昨年は東京ドーム出場、そして初戦突破を果たすことができました。また、スタンドとの一体感は感動的でありました。今シーズンの目標は「連続出場・日本一」です。志高く、日々感謝の気持ちと向上心を持って取り組んでいきたいと思っております。皆さま方のご声援をよろしくお願いいたします。



///グループインフォメーション



株式会社 ジェイアール東海ホテルズ

すべてのお客さまに
喜びを提供

(株)ジェイアール東海 ホテルズ

当社が運営するホテルアソシア高山リゾートでは、11月19日に待望の温泉施設「スパウイング・天望の湯」がオープンしました。

2階層にまたがる温泉フロアには、檜風呂や岩風呂などの露天風呂や気泡風呂付きの内湯、サウナ室など十数種類のバリエーションがあります。

また「天望の湯」の名前のとおり、フロアからは雄大な北アルプスも望めます。テラスレストラン「遊食楽(ゆうしょくらく)」でも飛の味を気軽に楽しんでいただけます。ホテルアソシア豊橋、名古屋マリオットアソシアホテルとともに、スタッフ一同、JR東海社員の皆さま及びご家族の方々のお越しをお待ちしています。



▲▶11月にオープンした温泉施設「スパウイング・天望の湯」



ASTY
静岡

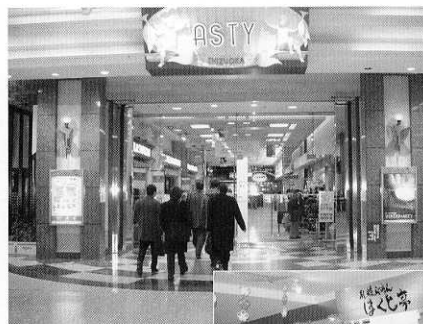
社員一丸となって
お客さまに愛される商業施設を
ジェイアール東海
静岡開発(株)

当社は静岡駅の商業施設「アスティ静岡」をはじめ、各駅商業施設や静岡地区の高架下の開発・運営を行っています。

「アスティ静岡」西館は平成3年に本格的なグルメ、ギフト、特産品の専門店街として誕生し、静岡駅を利用するお客さまを中心に長年にわたりご愛顧をいただいてきましたが、7月に開業14周年を迎えるのを機に、活気ある商業施設として再構築するため増床・リニューアルを行います。また、あわせて新幹線・在来線の高架橋耐震補強工事も実施します。

駅利用者に加え地元の方々にも愛される商業施設となるよう、魅力的なテナントの誘致や、回遊性を高めるために通路環境を整え、平成17年夏に飲食店を中心に第一次開業、平成18年春にグランドオープンを予定しています。

1人でも多くのお客さまに満足していただける「アスティ静岡」を目指して、社員一丸となって取り組んでいきます。



◀アスティ静岡



▲驛通通り

TSR

「お客さまと直接向き合う店作り」へ
社員一同モード切替中

ジェイアール東海 フードサービス(株)

●チャレンジ

平成14年12月「名古屋・驛通通り」営業開始!この「驛」の字に「味とサービス」の願いを込め、多くのお客さまに来ていただく店作りにチャレンジしました。社員一同努力の結果、お客さまに認知していただき多くのお客さまに来店していただきました。

この成功事例を肝に銘じ「本生さめき驛釜うどん」、「キューズマルシェ驛」の「ひさだ家名古屋」、「杏花」、「カフェデンマルク」3店舗、「静岡驛通」、名古屋中央通りの「マーメイドカフェ」、「驛釜きしめん」、「名古屋らーめんなご家」と担当させていただきました。「全員参加の店作り」を合い言葉に社員みんなで「熟慮し」、「丁寧に」そして「多くの方に知恵をいただき」お客さまと直接向き合う店作りの土台が完成しつつあります。

●ビッグチャンス

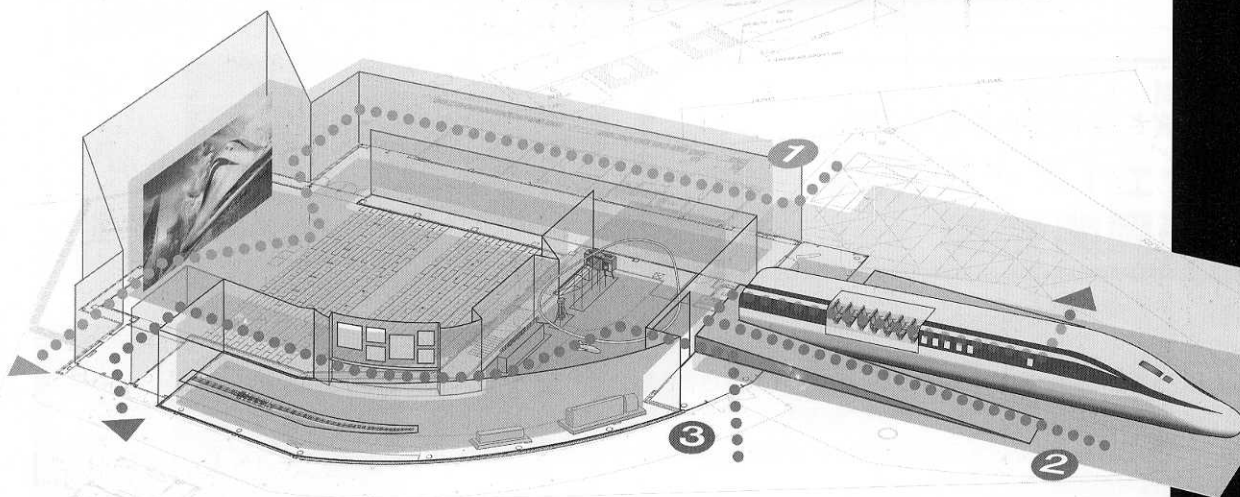
平成17年は、中部圏が国内外から大きな注目を集めています。中部国際空港の開港、日本国際博覧会と多くのお客さまが中部地区にいられます。そして今年は、営業を開始した「驛」シリーズの店に多くのお客さまに来店していただき、しっかり稼ぐビッグチャンスだと考えています。そのために社員が一丸となって「味とサービス」を磨き、多くのお客さまに来店していただき「お客さまと直接向き合う店」を合い言葉に取り組むたいと考えています。



1 超電導リニア3Dシアター

3D、800インチ（縦10m×横18m）の大画面で
時速500kmを超えるスピードを体感

山梨リニア実験線における超電導リニアの走行シーンをハイビジョンによる鮮明な3D映像で再現します。

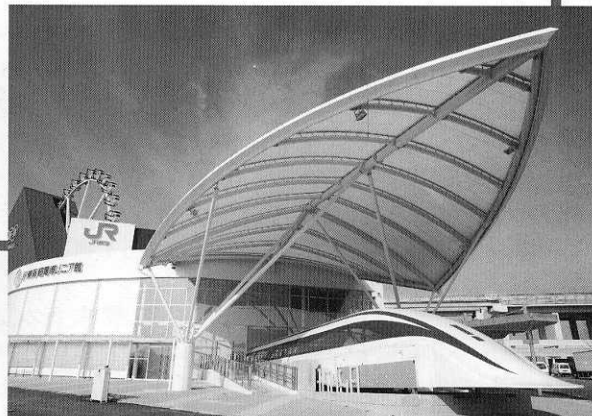
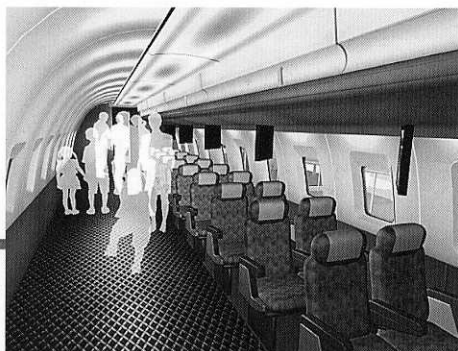


JR東海 超電導リニア館

2 超電導リニアMLX01-1

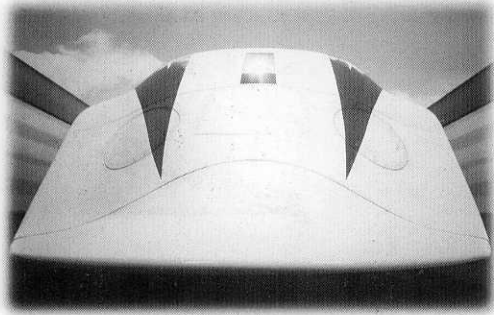
世界最高時速581kmを記録した車両がやってきた

2003年12月に山梨リニア実験線で鉄道の世界最高速時速581kmを達成した実物車両「ダブルカスプ形状の先頭車（MLX01-1）」を展示。迫力ある車体を間近でご覧ください。

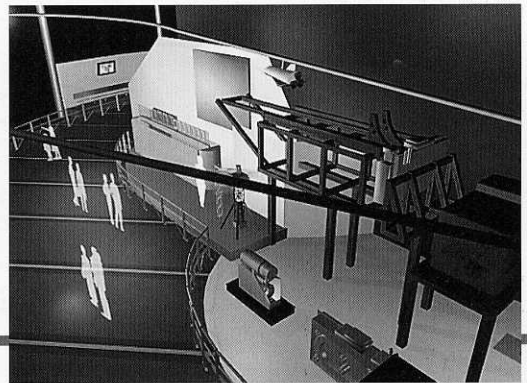


3 超電導ラボ

超電導技術・原理をわかりやすく紹介



超電導現象を利用した浮上実演などを通じて、最先端技術のパワーや仕組みを、楽しみながら実感できます。



JR東海 超電導リニア館 オフィシャルグッズ

JR東海の監修を経て商品化したもので、小さなグッズといえども実車両の特徴をとらえた、まさに「オフィシャル」の名にふさわしいものばかりです。

MLX01キーホルダー 各1,000円(税込)

MLX01-1とMLX01-901をモデルにしたキーホルダー2種類。ヘッドライト部分にLEDライトを内蔵。



MLX01ストラップ 1,000円(税込)

車両デザインを忠実に再現した携帯電話用ストラップ。

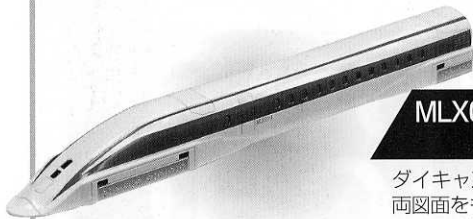
MLX01プラモデル(2個セット) 1,500円(税込)

車両図面をもとに正確に縮小したNゲージ模型と同じ、160分の1スケールのプラモデルです。



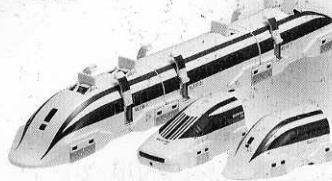
MLX01ダイキャストモデル 1,500円(税込)

ダイキャスト製の模型で、実際の車両図面をもとに精密に作り上げたフォルムや塗色が特徴。



MLX01チョコQ [リアルタイプ] 3,000円(税込)

連接台車の再現、ドアの開閉など、これまでにない一回り大きな鉄道チョコQです。



[ミニタイプ(2個セット)] 2,000円(税込)

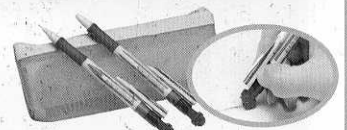
手のひらサイズのかわいらしいチョコQ。超電導リニア車両の台車部分まできちんと再現。



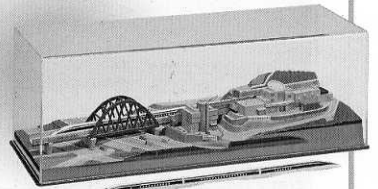
MLX01ポストカード 500円(税込)

先頭車両や、各種車両編成など超電導リニア車両の写真が10枚のはがきになりました。

MLX01ローラースタンプ付 ボールペン&シャープペンセット 1,500円(税込)



ノック部分にローラースタンプ内蔵。転がすと超電導リニア車両のイラストをスタンプ。



山梨リニア実験線ジオラマ 3,500円(税込)

超電導リニア車両が走行試験を行っている「山梨リニア実験線」をリアルに再現。ガイドウェイと車両の両方に組み込まれたマグネットシートによって、超電導リニア車両模型は実際に磁力で浮上した状態での展示が可能。

販売箇所 ・JR東海管内(東京駅~新大阪駅)の主要駅にある駅構内売店
・ジェイアール名古屋高島屋(JR名古屋駅直結)8階おもちゃ売り場
※一部の店舗では取扱のない箇所もございます。予めご了承ください。

通信販売 <インターネット> <http://MLX01shop.com>(「01」は数字)
<カタログ> はがきに「カタログ希望」と明記の上、
郵便番号・住所・電話番号・氏名を記入し、
〒108-0075 東京都港区港南2-1-95 JR東海品川ビルB棟7F
(株)ジェイアール東海エージェンシー内「超電導リニア館」
オフィシャルグッズ事務局 までお送りください。
※通信販売でご購入の際、送料・代金引換手数料などが商品代金とは別に必要です。

お問い合わせ ☎ 0120-919-399(フリーダイヤル・自動音声案内・24時間対応)

この他、パビリオンでしか手に入らないオリジナルグッズもございます。

さあ、みんなで万博へ行こう!

土曜・休日、ゴールデンウィーク、夏休み、閉幕直前は、愛知万博会場内が大変混雑することが予想されますので、平日もしくは開幕後早目の入場をお勧めします。



空想、ではない。
 夢、でもない。
 超電導リニアモーターカー。
 それは、今そこにある「現実」。

レールを離れ、従来の鉄道の概念を離れ、浮上走行する超電導リニア。
 地上最速を記録した実物車両が、この春、いよいよあなたの目の前に。

愛知万博「JR東海 超電導リニア館」でお会いしましょう。



- ◎10m×18mのハイビジョン大画面が映し出す、超電導リニアの全て。迫力の3D映像と臨場感あふれる音響で走行シーン等をご体感ください。
- ◎有人走行の世界最高速度(時速581km)の記録を達成した超電導リニアMLX01-1の実物車両を展示。車内の様子もご覧になれます。
- ◎超電導リニアの「浮上」「推進」の仕組みや、超電導が引き起こす不思議な現象などを、実験装置や実演を交えてわかりやすくご紹介します。



JR東海 超電導リニア館

<http://linear.jr-central.co.jp/expo>



愛知万博へは、新幹線 & エキスポシャトルで。

万博会場までのきっぷと入場引換券がセットになった便利でお得なきっぷ
「新幹線 愛知万博往復きっぷ」

好評発売中!
 お求めはお近くのJR駅および
 主な旅行会社で



EXPO 2005 AICHI

21世紀初の万博「愛・地球博」、愛知で開催中。



「叙勲」について

■「叙勲」の制度をご存知ですか？

「叙勲」とは、国家・公共に対し功労のあった方を、国が勲章を授与して讃える制度で、元国鉄職員も対象となります。「叙勲」には、存命中の方が対象で毎年春と秋に授与される「生存者叙勲」と、亡くなられた場合に随時授与される「死亡者叙勲」があります。

■叙勲の対象者

生存者叙勲は、国鉄に30年以上(退職時「参事」相当以上の場合は30年以下でも可)勤続し、昭和30年以降に退職された方が対象になります。

死亡者叙勲は、国鉄に30年以上(指定職は25年以上)勤続し、昭和32年5月3日以降に退職された方が対象になります。

但し、いずれの場合も、原則として

- ①退職時に指定職であった方(但し、指定職在任1年以上の場合に限る)
- ②昭和45年3月31日以前に退職された方
(死亡者叙勲の場合、10職群以上の職にあった方)
- ③昭和45年3月31日以前に現業機関の管理職経験のある方
(死亡者叙勲の場合、昭和45年以前に10職群以上の職にあった方)
- ④在職中、所属長以上による個人表彰歴のある方(永年勤続表彰は除く)

のいずれかの条件を満たす場合であって、懲戒処分歴や前科のない場合に限ります。

■叙勲候補者の決定

但し、生存者叙勲の場合、元国鉄職員の叙勲受章者は毎年数名に限定されていることから、上記の条件を満たしたからといっても、叙勲受章とはなりません。年齢(参事相当以上の指定職の方は70歳以上が前提)、現業機関従事率(参事相当以上の指定職以外の方は、現業での就業期間が在職期間全体の70%以上であることが前提)のほか、国鉄時代の功績等を考慮し、J R東海として春と秋の叙勲候補者を決定し、国鉄清算事業本部を経由して国に上申、最終的に国が受章者を決定します。

なお、死亡者叙勲の場合は随時の上申となりますが、対象の方が亡くなられた後、4日以内にご連絡頂くことが必要となります。

■叙勲についてのお問い合わせ

下記のJ R東海の本社または各鉄道事業本部の人事課(表彰担当)までお問い合わせ下さい。

【J R東海】

本 社：人事部人事課(表彰)	03-6711-9612	静岡支社：管理部人事課(表彰)	054-282-3599
東海鉄事：管理部人事課(表彰)	052-564-2320	関西支社：管理部人事課(表彰)	06-6302-5043
新幹線鉄事：管理部人事課(表彰)	03-5218-6232	三重支店：管理課(表彰)	059-226-6140

駅探訪

東海道新幹線 しながわ 品川駅

●開業／平成15年10月1日
●所在地／東京都港区港南二丁目

駅は進化する。そして街も駅とともに進化を続ける。いさゝか使い古された感のある言葉だが、「進化」の二文字をなくして新幹線品川駅を語ることはむしろ不自然に映る。



平成15年10月1日、会社発足以来の一大プロジェクトであった全列車最高速度時速270km化、そして弾力性のあるダイヤ設定を可能とした品川駅の新設によって新幹線は大きな「進化」を遂げた。新幹線のサービスは大きく飛躍し、その効果は、2003年度下半期の新幹線のご利用が前年同期比で3%以上の伸びを示したことから明らかだ。

そして「進化」は、品川駅周辺にも及んだ。旧新幹線品川車両基地の跡地は、オフィス・住宅・店舗・ホテルなど多様な機能が備わった都市空間へと変貌を遂げた。品川駅港南口界隈は以前から人の流れが多かったものの、人の流動に回遊性がなく、やや無機質にも感じられたが、再開発と新幹線駅の開業で流動の興行が一気に拡大。都市は新幹線品川駅の開業で、まさに新たな進化のための「胎動」を得たのである。

このように発展著しい品川であるが、駅の南側、旧東海道の一帯には江戸情緒が随所に残る。品川区内では、旧東海道の史跡を活用した街づくりが盛んだ。歴史を積み重ねて発展を続ける品川。開業からまだ1年しか経っていないが、新幹線品川駅は既に品川の発展を語る上で欠かせない存在になった。

「会報への寄稿、 文芸欄への投稿」要領



支部及び会員からの寄稿

1 「支部だより」

支部総会、増収協力旅行、清掃美化運動、事故防止運動等支部からの「たより」を随時受付いたします。テーマ、内容等は自由ですが、四百字以内、写真掲載希望は一枚以内で、執筆者氏名を明記して下さい。

2 「読者のひろば」

会員から「情報、体験談等」の寄稿を随時受付いたします。テーマ、内容等は自由ですが、千二百字以内、挿絵、写真等の掲載希望はいずれか一枚以内とし、所属する地方本部、支部、氏名、年齢及び住所、電話番号を明記して下さい。

3 「短歌、俳句及び川柳」

会員から「短歌、俳句及び川柳」の募集をいたします。

応募は、会報発行毎に、一名種別ごとに官製葉書一枚に、短歌は二首、俳句は三句、川柳は二句以内に限ります。記入の際に、冠部に「短歌」「俳句」「川柳」と朱書して下さい。

応募葉書には、応募年月日、所属する地方本部、支部、氏名（フリガナを付し、本名も記入する）、年齢及び住所、電話番号を明記して下さい。

4 寄稿及び投稿先

〒四五〇—〇〇〇二
名古屋市中村区名駅

三十三三十二

キヨスク名駅ビル内

東海鉄道OB会・会報編集

係あて

「注」寄稿または投稿された作品等は、順次会報に掲載いたしますが、応募状況や誌面の都合等により、掲載が遅れる場合があります。

なお、寄稿または投稿された原稿は返却いたしません。

編集後記

創刊号の発行について

まず、会報の創刊にあたり、法人会員各社様のご芳名の掲載にご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。

従来の鉄道OB新聞は、全国の情報を限られた紙面で会員に提供していたため、地域的なニュース・身近な話題に欠け、JR東海及び関連グループの施策や動向についての情報にも疎くなるばかりでした。一方で多くの会員からは身近な支部、会員個々の話題とともにJR東海の活躍・情報をもっと知りたいという強い要望があり、その対策に苦慮していました。

そういった会員の声にこたえるため、東海鉄道OB会発足と同時に独自に会報を発刊しようと意気込んで取り組んできましたが、創刊号を編集するに当たり、できるだけ多くの情報を盛り込もうとあれこれ考え右往左往しましたが、JR東海のご協力もあって、何とか発行に漕ぎ着けることができ、会員の皆様には興味を持って読んでいただけるのではないかと思います。

次号からは、支部・会員からの寄稿・投稿も加え、より一層、会員の皆さんにとって有意義な会報となるよう誌面作りをしていきたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

今後の会報について

東海鉄道OB会報は、年四回（四月、七月、十月、一月）発行する予定をしております。その内容は、会員の知識教養、福祉、健康増進に関すること、東海鉄道OB会の情報、全国に共通する年金等の情報、JR東海とその関連グループの施策と情報、各支部及び会員からの寄稿と文芸欄への投稿を記載して編集する方針ですのでお気付きの点などございましたらご意見を下さい。

（杉浦）

発行 〒四五〇—〇〇〇二

名古屋市中村区名駅 三丁目三十三十二

キヨスク名駅ビル内 東海鉄道OB会本部

発行人 杉浦 定行

電話 ○五二一五六二六〇八〇